

国道1号富士川周辺における休憩・防災機能の強化方策 中間とりまとめ

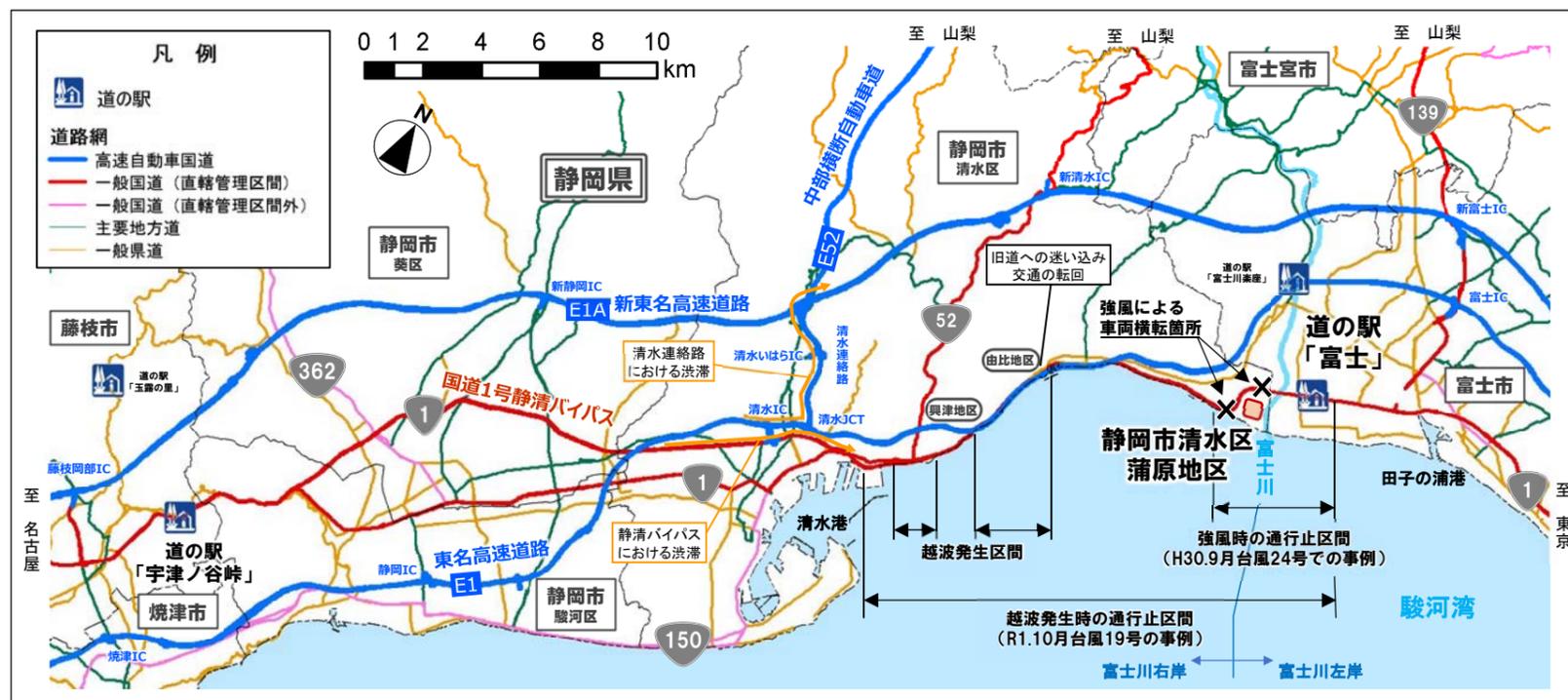
1. 現状と課題

■富士川右岸側

- 国道1号由比興津地区の通行止め時、通行止めに気づかないまま流入した車両による滞留が発生し、静清バイパス上にまで連続。
- 新東名への迂回を図る交通が集中し、清水連絡路が渋滞。
- 富士川右岸の静岡市清水区蒲原地区において、令和4年度頃を目途とする地方創生に取り組む新たな拠点整備が検討されている。

■富士川左岸側

- 富士川左岸の道の駅「富士」は、駐車容量が不足しているが、駐車場が上下線で分離しており、上下線で駐車マスを共有できない構造となっている。
- 道の駅「富士」はこれまで防災拠点として想定されておらず、国道1号由比興津地区の通行止め時、道の駅「富士」下り線駐車場が、新富士川橋にしか退出できないため、休憩した車両の通行止め区間への流入や、駐車場が満車となつての本線滞留を避けるため、閉鎖されている。
- これにより待避場所を確保できない交通の旧道への迷い込みや周辺道路への広域迂回が発生している。



2. 具体の取り組み

強化方策

■富士川右岸側

- 災害時の情報発信や新東名を活用した広域迂回の改善を検討のうえ、防災機能強化のあり方について検討を深める。
- 検討にあたっては、蒲原地区における拠点整備に向けた検討と連携し、その活用や連携のあり方についても検討を進める。

その他

- 今後、スポーツサイクル等を活用した取り組みについても議論を深める。

■富士川左岸側

- 道の駅「富士」の休憩機能強化、および富士市地域防災計画の道路利用者等の一時滞在施設としての防災機能強化に向け、以下の取り組みを進める。
 - ・道の駅「富士」の駐車容量の拡大のうえ、所要の防災施設を整備
 - ・国道1号に緊急時に転回可能な中央分離帯を導入
 - ・道の駅「富士」運営者と連携したBCP策定、防災訓練を実施